

平成28年度事務事業評価表 (一般用)

①事務事業名

事業コード

081214

幼児の育成指導事業

開始年度

平成9

年度

→

終了年度

年度

担当部課

部課コード

081200

Tel

04-2991-1813

健康づくり支援課

グループ

健康づくり第1G

②事業の概要

事業の種類

☒ 自治事務☐ 法定受託事務☐ 法定受託＋附加

根拠法令

分野別計画・指針

所沢市子ども・子育て支援事業計画

母子保健法、所沢市母子保健事業実施要綱

関連・類似事業

乳幼児健康診査事業、乳幼児発育・発達相談事業

総合計画の体系

章健康・福祉節保健・医療基本方針生涯を通した健康づくりの推進

事業開始の背景

核家族や都市化の進行等により、子育てを支援する身近な相談者がいないということがあげられる。中でも3歳児健康診査までの間に言語・運動発達面で経過観察が必要と思われる児に対しては行政としての支援が必要であることから、集団遊びを通して発育発達の確認と保護者に子育ての不安や悩みを共有する場を提供する本事業を開始した。

③事業の内容

目的 (どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)

児の集団遊びや自由遊びを通して臨床心理士・保健師・保育士・保育担当者がより多面的に児を観察して健全な発達を促す。また、保護者の不安を受け止めることで安心感を与えたり悩みの解消を行うことで育児支援につなげていく。

対象 (誰を、何を対象としているのか)

乳幼児健康相談、発育発達相談、2歳児歯科健康教室の事業や個別相談等で言語・運動面で経過観察が必要と思われる2歳児

対象数

単位

平成 26 年度

81

人

平成 27 年度

79

人

事業の具体的な内容及び実施方法

①参加者固定1コース4回の参加とし月1回実施。

②保育士と保育担当者が中心となって集団遊びを進行し、児の発達状況の確認と親子が行える遊びの体験をする。また、臨床心理士や保健師は保護者の主訴に合わせて個別相談を行う。

③各コース2回目には臨床心理士から保護者向けに言語表出の前段階の発達、児への関わり方等について講話を実施。

④終了後にカンファレンスを行い、今後の方針を検討する。

④経費

<<会計種別>>

一般会計

平成 26 年度 (千円)

平成 27 年度 (千円)

平成 28 年度 (千円)

予算現額

1,101

1,240

1,241

決 算 (見込み含む)

1,009

1,165

(非常勤特別職員) (臨時的任用職員)

(人) (0.00 人) (人) (人)

正規職員人件費

0.92 人

8,023

8,054

事業費合計

9,032

9,219

財源内訳

一般財源

9,032

9,219

1,241

国・県支出金

0

0

0

その他 ()

0

0

0

※「財源内訳」について
平成28年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑤実績

項目名

項目説明

単位

H 26

H 27

H28見込み

将来目標

活動実績

開催回数

月1回×12回×2コース

回

24

24

予約人数

予約人数 (延べ数)

人

278

268

参加数

参加延べ数

人

183

198

⑥成果

項目名

項目説明

単位

H 26

H 27

H28目標値

将来目標

成果指標

参加率

参加者÷予約人数×100

%

目標値

100

100

100

100

実績

66

74

☒ 「実績」拡大図る☐ 「実績」縮小図る

目標達成状況

どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています

%

達成率

66

74

↑どちらかをチェックしてください

⑦改善点

(1)平成27年度中に改善した点 (改善内容・その結果について記載してください)

各コースで臨床心理士から保護者向けに言語表出の前段階の発達、児への関わり方等について講話 (10分程度) を実施し、保護者の理解を深めるとともに育児不安の軽減、相談機会の充実を図った。

(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析

対象者が乳幼児及びその家族であり、突然の体調不良等により直前のキャンセルがある。

⑧評価

☒ 継続☐ 終了

方向性の

事業実施方法 (複数選択可)

☐ 拡大☐ 縮小☐ 改善・効率化☐ 現状維持☐ その他

理由

グループ終了後に取っている参加者アンケートをもとに、グループの満足度と改善点を探り、参加者の要望に対応していきたい。

次年度予算

☐ 拡大☐ 縮小☒ 現状維持

理由

保護者が専門スタッフとの個別相談などを通して、育児不安を軽減できる場になっており、今後も引き続き実施していく必要があるため。

(1)平成28年度に取り組んでいる状況

言語・発達面で経過観察が必要と思われる児とその保護者が、グループ活動に継続的に参加することで児の成長と一緒に確認でき、参加者同士で悩みを共有することで育児不安を軽減できる場となっている。また、保護者が臨床心理士や保健師等に個別相談を行うことで、育児方法や児への関わり方を学ぶ機会となっている。

(2)今後の方向性

今後も、様々な職種のスタッフが多面的に児を観察し、児の健全な発育を促し、保護者の不安や悩みの解消を行うことで育児支援につなげていく。

評価日

H28.8.12

評価者職氏名

健康づくり支援課長 洲江 弘行

⑨環境影響

有益な環境影響

有害な環境影響を及ぼす原因活動

文書の作成

規制を受ける環境法令等

無

緊急事態

無